

「富国有徳の美しい“ふじのくに”」を目指して…

第34号

富国有徳の美しい“ふじのくに”

県庁のしごとと改革ニュース



令和4年度の

「ひとり1改革運動」の取組成果

を御紹介します！

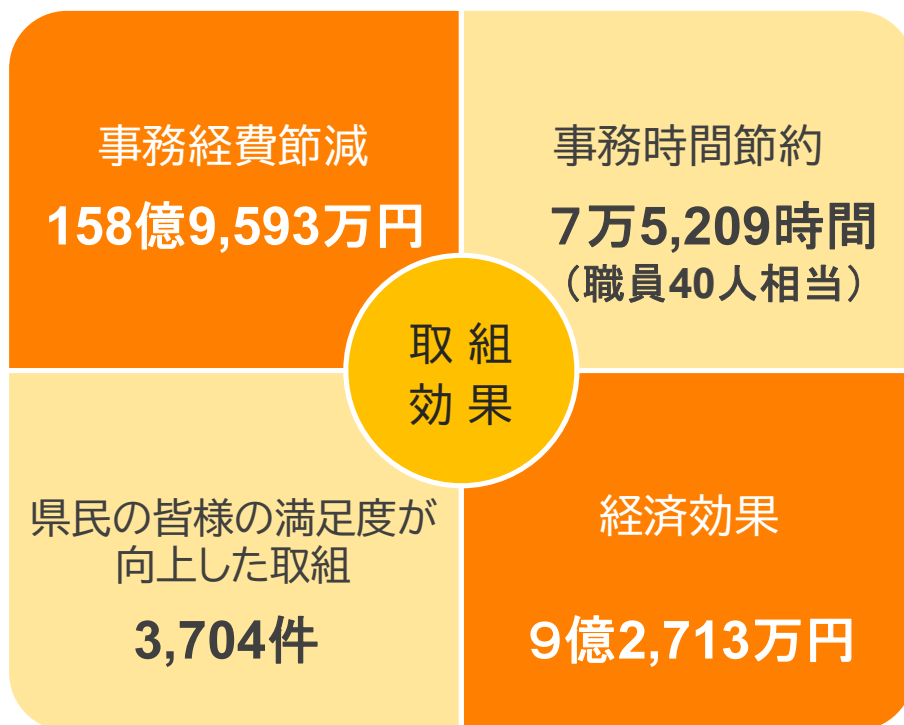


静岡県では、職員一人ひとりが自ら考え、身近なところから改革・改善を実践する「ひとり1改革運動」に取り組んでいます。

「ひとり1改革運動」は、平成10年度から始まり、令和4年度で25年目となりました。

25年間の取組件数は約32万2千件となり、経費の節減や時間の節約、県民サービスの向上に大きな成果を上げています。

令和4年度の取組件数 **12,742件**



※ 取組効果として掲載した数値は、取組成果の目安として、見込みも含めた各所属の自己申告値を集計したものです。

バックナンバーはこちら

静岡県 経営管理部 行政経営課

静岡県 行政経営課



〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 電話:054-221-2911 FAX:054-221-3659
E-mail gyoukei@pref.shizuoka.lg.jp <https://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-030a/>

令和5年5月発行

令和4年度「ひとり1改革運動」年間優秀事例紹介

働き方改革の推進大賞

働き方改革に沿った業務改善

県立病院機構 総合病院 消化器外科

▼ 課題

当科の手術件数は、全国トップクラスで、年々増加している。
最先端医療のロボット手術や周辺病院の規模縮小による手術依頼の増加で多忙を極めている。

▼ 改善内容

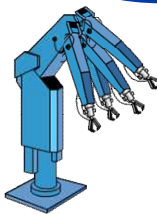
- ・各医師の業務内容を把握し、業務量を調整
- ・カンファレンス等の時間を日勤帯で行うように調整
- ・手の空いた医師全員で標本整理を実施
- ・上級医による部下への積極的な休暇取得の呼びかけ

▼ 成果

働きやすい環境になり、若手医師の育成が十分にできるようになると共に、当院への就職を希望する声も多く聞かれる。

時間外勤務
大幅減少

休暇取得率
大幅増加



魅力的な職場環境へ



診療技術の向上◎
若手医師の確保◎



本件は、個々の勤務状況の把握・分析を丁寧にいき、現場の視点で目指す体制を明確に設定し、チームで改善に取り組むことで、業務の効率化や生産性の向上に大きな成果を得ることができました。

適切なチームマネジメントにより、業務改善に加え、患者満足度の向上につながる点も非常に高く評価されます。

静岡県立大学 木村 綾 講師

県民サービスの向上大賞（優秀賞）

病気療養中でも、高校生でいたい！

県立病院機構 こども病院 小児がん相談室

▼ 課題

病気療養が必要な高校生は、留年を覚悟で休学か退学、又は、通信制高校に転入するしかなく、教育継続が難しかった。

また中学3年生は、進路相談や学校見学会への参加と行った高校受験に必要な準備ができなかった。

▼ 改善内容

- ・県内の小児・AYA世代診療施設と協議やワークショップを開催
- ・静岡県教育委員会や関係所属に、以下の①～④を要望
- ①オンライン授業参加認定、②進級に必要な単位取得支援と学習支援、③修学旅行等の課外授業のオンライン参加、④医教連携コーディネーターの設置

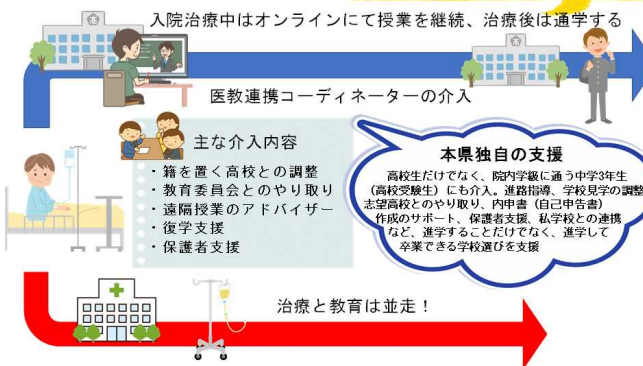
▼ 成果

- ・Wi-Fiを整備した「AYAラウンジ」を開設した。
- ・高校生は、治療を受けながら、オンラインで授業に参加し、学習を継続できるようになった。
- ・県下に医教連携コーディネーターによる進学支援体制を構築。

現在のシステム

／高校生がん患者の教育支援体制

- オンラインによる屋外授業への参加が可能
- 体育授業
 - 入学式・卒業式
 - 体育祭・文化祭
 - 遠足・修学旅行 など



現在、既存の制度の隙間で起こる課題を解決するソーシャル・イノベーションが注目されています。

本事例は病気療養中の高校生の修学という課題をICTや制度の組み合わせを用いて解決をはかった好例と言えます。こうした意識や視点は、今後も様々な構造的問題の解消につながる事が期待されます。

静岡大学 牛場 智 准教授

令和4年度「ひとり1改革運動」年間優秀事例紹介

連携・協働の推進大賞

伊豆文学賞ポスターデザイン制作コンテストの実施

スポーツ・文化観光部 文化政策課 文化振興班

▼ 課題

伊豆地域を舞台とする「伊豆の踊子」や「しろばんば」に続く新たな文学作品や人材を見出すため、「伊豆文学賞」を開催している。文学作品を募集するためのポスターは、デザインの目新しさに欠け、興味・関心を集める効果が十分ではなかった。

▼ 改善内容

・静岡デザイン専門学校との2年生を対象に、デザイン制作を授業の課題とし、コンテスト形式で審査し、入賞作品を次の「伊豆文学賞」ポスターデザインに採用することとした。

▼ 成果

- ・ポスターデザインが今までに無い斬新なものとなった。
- ・クリエイターの卵である学生が、文化・歴史等を再認識すると共に、デザインの知識を実践する機会の提供に繋がった。



何よりもまず、ここまで変わるかと思うデザインの素晴らしさにおどろきです。それを得るために構築した協働関係、プロセスを高く評価することができます。協働には、「地域に埋もれた資源を見つけ出し、ともに協力し、お互いに活用すること」も含まれます。この事例は、その好事例であると感じました。

大阪経済大学 酒井 大策 准教授

ミス防止・コンプライアンス大賞

新規採用職員被服貸与申請のDB化

経営管理部 福利厚生課 福利厚生班

▼ 課題

新規採用職員の被服について、年度当初の繁忙期に、各所属の被服担当者が、必要数・サイズ等を取りまとめ、WordやExcelで貸与申請書を作成していた。貸与申請書における申請内容を当該職員が確認し、集計していたが、時間と労力を要していた。

▼ 改善内容

・「新規採用職員」用被服申請DBを既存の「更新職員」用DBをベースに作成し、新規採用職員本人が、DBに必要な数・サイズを入れて申請できるようにした。

▼ 成果

- ・所属被服担当者による取りまとめ作業が不要になった。
- ・職員本人による入力で、サイズ等の申請誤りが無くなった。
- ・被服貸与者の管理も効率的にできるようになった。



測量、工事監督・検査、建築確認、検査教育研究（県民部地建住宅局等）及び自然ふれあい室、産業部振興局、光ノ丘センター、産学連携推進課及び農林業局畜産及び水産局畜産、農林事務所、建設部畜産、建設部関係出先機関、空港部畜産、静岡空港建設事務所

発行日：2022/04/01

No.	不要	品名	詳細	ポケット/袖	サイズ	数量	期前(月)	満了日
1	<input type="checkbox"/> 不要	作業衣(上)	表示		3L	1	36	令和7年 3月31日
2	<input type="checkbox"/> 不要	作業衣(下)	表示	<input type="checkbox"/> 有	4L	1	24	令和6年 3月31日
3	<input type="checkbox"/> 不要	夏作業衣(上)	表示	<input type="checkbox"/> 長袖	LL	1	36	令和7年 3月31日
4	<input type="checkbox"/> 不要	防寒衣	表示		3L	1	60	令和9年 3月31日

本事例は新規の被服貸与事務をDB化する改革により、本人入力方式とすることで申請とその後の事務を省力化・効率化するとともに、サイズ間違いなどのミスを防止するもので、総務事務の改革のモデル事例です。

既存のDBが対象外としていたものをDB化した発想は他の総務事務にも転用できるアイデアです。

静岡産業大学 小泉 祐一郎 教授



令和4年度「ひとり1改革運動」年間優秀事例紹介

フレッシュ大賞（優良賞）

デジタル技術の活用で道路・河川パトロール業務を効率化

下田土木事務所 維持管理課 維持調査班

▼ 課題（道路）

所内全職員が、当番制で現場に出向き、道路状況を確認する。説明会参加や膨大なマニュアルを読むことが負担であった。

▼ 改善内容（道路）

道路パトロール説明動画を作成、eラーニングシステムに掲載

▼ 成果（道路）

職員がタイミングを選んで、効率良く学べるようになった

▼ 課題（河川）

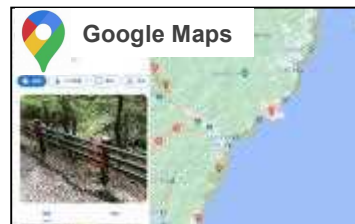
毎年5～6月に、管内管理河川の状況を確認するが、指摘箇所を河川台帳（紙）で管理しており、情報共有が困難であった

▼ 改善内容（河川）

GoogleMapのマイマップ機能で指摘箇所の位置情報等を整理

▼ 成果（河川）

市町職員との情報共有、現場へのアクセスが容易になった



働き方改革では、情報共有の点においてもデジタル化が重要です。本事例ではeラーニングシステムを用いてそれを図るとともに、繰り返し学習できるという副次的効果も生み出しています。またグーグルマップによる情報共有では関係市町職員の時短にもつながっており、今後のさらなる推進が期待されます。

静岡大学 牛場 智 准教授



広報グランプリ大賞（最優秀賞）

静岡県試験研究機関初 クラウドファンディングを活用した研究資金の募集に挑戦！

経済産業部 産業イノベーション推進課 研究調整班、伊豆農業研究センター わさび生産技術科、森林・林業研究センター 森林資源利用科、環境衛生科学研究所 医薬食品医薬班・大気水質部大気騒音環境班

▼ 課題

試験研究機関は、各々に広報を行っているが、研究内容の専門性が高く、研究成果等を分かりやすく伝えることが難しい。また、新技術の開発に向けた研究の水準の維持・拡充を図る為、厳しい財政状況の中でも試験研究費の確保が必要である。

▼ 改善内容

研究員の企画・提案力、表現力の強化と外部資金の確保の為、クラウドファンディングによる研究資金獲得に挑戦した。

- ①難しい研究内容について、分かりやすい表現で情報発信
- ②SNS等の新たな広報手段と新聞等の従来の手段を有効活用

▼ 成果

認知度が向上し、延べ328人から3,377千円の寄附があり、エントリーした4課題の内、3課題が目標金額を達成すると共に、隣県研究者との共同研究へ発展する可能性を拓くことができた。



クラウドファンディングとは、「共感」をお金という形でいただくことだと思います。優れているものであっても、伝えることができなければ「共感」を得ることはできません。伝えることに正面から取り組んだ結果として、たくさんの「共感」を得た素晴らしい取組だと思います。

大阪経済大学 酒井 大策 准教授